

さい がい やく だ あか は ねきょうどう ぼ きん
災害のときにも役立つ赤い羽根共同募金

けです。のも、この大地震がきつた。そして、「ボランティア」という言葉が広まった。準備すること「について」も考えるようになりました。

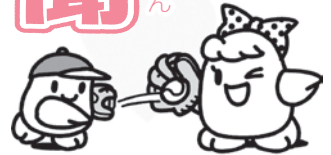


阪神・淡路大震災から20年
1995年1月17日の朝、マグニチュード7.3の阪神・淡路大震災が発生しました。戦後の都会をはじめておそった大地震。この大地震ではたくさんの家や建物が崩れおち、約6400名もの人が亡くなりました。この大地震をきっかけに、「防災(台風・地震・火事などの災害を防ぐこと)」「だけでなく「減災(災害による被害が少しでも減るよう)に準備すること」について



や お し
八尾市

ふく し しん ぶん
こども福祉新聞



だい じゅう ごう へいせい ねん がつはっ こう
第10号 (平成27年3月発行)



しん さい
この震災をきっかけに



地震のあと、たくさんのボランティアの人たちが全国から集まり、傷ついたまちや人が一日でも早くもとに戻るよう支えました。そんな支える人を全国から応援するために、「災害等準備金」という募金の使い方が始まりました。

おつ えん ちゅうめは、支える人を
応援するって。

この地震では、こわれた建物や家具の下敷きになって亡くなった人がたくさんいました。そのため、地震に強い校舎に建て替えたり、家の中の重い家具を固定したりするなど、災害への備えが進んでいます。

じしん じゅんび
**1つめは、私たちが
自身が準備すること。**



あか はねきょうどう ぼ ぎん かつ とう 「赤い羽根共同募金のしくみ」



自分の町の福祉のために集められている赤い羽根共同募金には、いつ起こるかわからない大きな災害に備えた「災害等準備金」というしくみがあります。

そして大きな災害が起こったときには、全国でためられた「災害等準備金」がその災害が起きたま

ちを支えるボランティアのために使われるしくみがつくられました。

2011年の東日本大震災のときにも役立てられたこのお金は、阪神・淡路大震災をきっかけに作られたしくみなのです。日本全国で集められている共同募金は、自分のまちだけでなく、いざというときに全国で使われる大切なお金でもあるのです。



あか はねきょうどう ぼ ぎん かつ とう
▲赤い羽根共同募金活動

おうちのかたへ

あの阪神・淡路大震災から20年。この大地震は阪神・淡路のまちに大きな被害をもたらした。八尾市でも大きく揺れました。ですが、今の子どもたちはこの揺れを経験していません。震災から20年という節目の年を迎えた今、来るべき大災害に備える大切さと、共同募金の日々の取り組みを、八尾市の子どもたちに知っていただこうと考えました。

自分自身が大災害に遭う前に、どんな備えが必要でしょうか。また、東日本大震災のように遠く離れた地域で大災害が起きたとき、どのような支え合いの仕組みがあればいいでしょうか。

新聞でもお伝えしている赤い羽根共同募金

では、災害発生時に被災した人々に対する即応的な支援が行える仕組みがあります。具体的には、①被災者への義援金募集 ②災害ボランティア活動支援（各都道府県の募金会では「災害等準備金」を積み立て、被災した都道府県に拠出し現地で頑張るボランティア活動を資金面から支援しています）③企業とのネットワークによる支援、などの活動です。

【じぶんの町を良くするしくみ。】の共同募金が、実は災害発生時に遠く離れた地域のまちを支えるしくみも持っていることをこの機会に知り、支え合う一員になっていただきたいと思っています。



10月1日 ▶ 12月31日